

ビワ生育情報

千葉県
平成25年10月号

平成25年7～9月の気象

平成25年7～9月の気象は表1に示した。7月の平均気温は、第1、第4～第6半旬で平年を下回ったが、月平均は24.6℃で平年及び前年より0.3℃高かった。降水量は、第4半旬を除く5半旬で平年を下回り、第2及び第3半旬では降雨がなかった。月合計は57mmで平年より131mm(70%)、前年より47mm(45%)少なかった。日照時間は、第2～第4半旬で平年を上回り、月合計は188時間で平年より13時間(7%)多く、前年より10時間(5%)少なかった。本年の関東地方の梅雨明けは7月6日で、平年より15日、前年より19日早かった。

8月の平均気温は、第2～6半旬で平年並みか上回り、月平均は26.9℃で平年より1.0℃、前年より0.3℃高かった。降水量は、全ての半旬で平年を下回り、第3及び第4半旬では降雨がなかった。月合計は32mmで平年より111mm(78%)少なく、前年より19mm(146%)多かった。日照時間は、第1、第5半旬を除く4半旬で平年を上回り、月合計は254時間で平年より34時間(15%)多く、前年より3時間(1%)少なかった。

9月の平均気温は、第1、第3及び第5半旬で平年を上回り、月平均は23.2℃で平年より0.3℃高く、前年より1.0℃低かった。また、昼夜の寒暖差が大きい日が多く、第6半旬では急速に冷え込んだ。降水量は、第2、第4及び第6半旬で平年を下回り、月合計は186mmで平年より54mm(23%)、前年より11mm(6%)少なかった。日照時間は、第2半旬を除く5半旬で平年を上回り、月合計は187時間で平年より41時間(28%)多く、前年より1時間少なかった。

表1 平成25年7～9月の気象(暖地園芸研究所)

月	半旬	平均気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(hr)		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
7	1	22.3	22.7	22.3	16	38	86	16	21	14
	2	25.7	23.2	23.0	0	43	11	50	23	27
	3	26.5	24.3	25.1	0	37	1	40	25	24
	4	23.4	24.6	24.8	34	25	7	30	28	43
	5	24.0	24.8	23.0	1	22	1	19	33	19
	6	25.6	25.7	27.2	6	24	0	33	44	71
月平均/計		24.6	24.3	24.3	57	188	104	188	175	198
8	1	25.3	25.9	26.7	1	22	0	24	37	45
	2	27.9	26.1	25.4	1	26	2	45	37	32
	3	27.8	26.2	26.5	0	25	7	53	36	26
	4	27.8	26.0	26.4	0	22	5	55	35	34
	5	27.4	25.8	27.3	9	19	0	18	35	60
	6	25.6	25.6	27.0	22	29	0	59	40	59
月平均/計		26.9	25.9	26.6	32	143	13	254	220	257
9	1	26.8	24.9	25.1	32	26	25	37	31	27
	2	23.9	24.4	25.9	9	43	5	26	28	46
	3	25.3	23.7	25.5	44	30	27	26	25	48
	4	21.8	22.6	25.6	10	43	64	45	22	28
	5	22.5	21.4	21.6	92	52	62	24	20	15
	6	19.1	20.4	21.6	0	53	15	29	20	25
月平均/計		23.2	22.9	24.2	186	240	197	187	146	188

台風による被害を受けた樹の管理

10月1日現在、5個の台風が日本列島に上陸又は接近した。本県のビワ産地では大きな被害はなかったが、倒伏した樹は起こし、損傷の程度に応じて枝を切り詰める。

起こせない場合は、管理しやすいように枝を整理する。根が地面に露出しているところは、覆土をして根の回復を図る。このときバーク堆肥と一緒に混ぜると、細根の再生が促され樹の回復が早い。白紋羽病のおそれのあるところは農作物病害虫雑草防除指針に従って防除する。

11月の管理

11月中旬には主要品種の開花が始まる。10月から引き続き行っている摘房・摘蕾は開花前に終わらせたい。アブラムシの防除は摘房・摘蕾の終了後に行う。

摘房・摘蕾

11月から12月にかけて摘房・摘蕾を行う。摘房では1樹の全新梢数の50%の枝に花房を残す。発育不良の花房や混み合った花房等を間引いて1樹内の花房数を調整する。

摘房を行うと、残した花房が充実するので、開花、結実及び幼果の初期生育が良好に進み、品質の揃った果実を生産することができる。また、余分な花房が少なくなるので、摘果作業が軽減される。

摘房と同時に摘蕾を行う。摘蕾では花房基部から3段目までの小花梗枝(花房の枝)の中から充実した2段を残して他をかき取り、花房内の花数を調整する。摘蕾は、残された蕾の充実を促すので、摘房と同様の効果がある。花房の長さが3～5cmに生長して、下部の2～3段の側花こうが分離した頃が作業しやすく、花房全体の開花期を著しく延長することができる。開花期が延長することによって寒害を回避しやすくなるので、この時期を逃さずに摘蕾を行う。

アブラムシの防除

ビワに寄生するナシミドリオオアブラムシは緑色大形のアブラムシで、ビワの葉裏の主脈に沿って加害する。寄生された葉は紅(黄)葉し、次々と加害しながら繁殖していくので短期間のうちに、甚だしい落葉を見ることがある。また排泄物はすす病を誘発する。

防除は発生状態を見て随時行うが、発生初期に行うのが効果的である。11月はナシなどから移ってきて繁殖期に入るので、この時期の防除は春の発生を抑えるために有効である。防除に当たっては、農作物病害虫雑草防除指針に従って行う。

樹及び花房の発育

花房の発現期は表2に示した。「楠」が9月22日で平年より7日遅く、前年より3日早かった。「大房」が10月1日で平年より12日遅く、前年より1日早かった。「田中」が9月20日で平年より5日遅く、前年より3日早かった。前年ほどではないが、本年も残暑が厳しかったため、花房の発現が遅れたと思われる。花芽数は平年に比べて多く、花房数の調節が重要である。

夏枝及び秋枝の発生は平年より多く、樹の生育も順調である。

表2 花房発現期(暖地園芸研究所)

品 種	本年 (月.日)	平年 (月.日)	前年 (月.日)
楠	9.22	9.15	9.25
大 房	10. 1	9.19	10. 2
田 中	9.20	9.15	9.23

平年：1983年～2012年の30年間の平均

【問合せ先:千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 果樹・環境研究室 電話0470-22-2961】

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生産者向け情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>